

令和3年度

病虫害発生予察特殊報 第2号

令和3年11月24日

茨城県病虫害防除所

TEL : 0299-45-8200

サクセスキクイムシの発生について

害 虫 名 : サクセスキクイムシ
学 名 : *Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg)
発 生 作 物 : ナシ

1. 発生確認の経緯及び県外での発生状況

- (1) 令和3年8月、県南地域のナシ園において収穫された「豊水」の果実表面に直径1mm程度の穿孔が確認された。果実内部には体長2mm程度のキクイムシ類の一種の成虫と思われる昆虫が認められた。
- (2) 「豊水」以降に収穫期を迎える他の中生品種や晩生品種については、同様の被害果実は確認されなかった。
- (3) 本成虫について、横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、サクセスキクイムシであることが判明した。
- (4) 本種によるナシ果実への食入加害を確認したのは、本県では初めてである。
- (5) 本種によるナシ果実への加害は、国内では平成17年に千葉県で確認されて以降、栃木県、愛知県、岐阜県、新潟県、愛媛県、宮城県、高知県、埼玉県で確認され、特殊報が発表されている。

2. 形態の特徴

成虫の体長は約2mm、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色をしている。

3. 生態の特徴

年1～2回発生する。成虫で樹内越冬し、翌年4～5月頃脱出して、衰弱している樹や倒木に深く穿孔し、孔道を作る。孔道の直径は約0.7mmで食入後に細かい木屑を排出する。本種の寄主範囲は広く、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類では、ナシの他に、リンゴ、モモ、カキ、クリなどの枝幹部への穿孔被害が確認されている。

4. 被害の特徴

- (1) 成虫によるナシ果実への穿孔から被害果が生じる。被害果は、日数の経過とともにその穿孔部分を中心に腐敗する。
- (2) 腐敗果の特徴は、果実吸蛾類の被害によく似ている。キクイムシの場合は穿孔穴の大きさが直径約1mmと吸蛾類に比べてやや大きく、穴を中心に一様に褐変する。これに対し、吸蛾類の場合は、吸汁部分の穴がより小さく、中心部と周縁部にわずかな濃淡がみられる。また、断面を観察すると、キクイムシの場合は穿孔部分以外に空間がみられないが、吸蛾類の場合はスポンジ状の空間がみられる。
- (3) 果実被害は、袋掛け後にも発生し、特に過熟果で多い傾向にある。

5. 防除対策

- (1) 果実は過熟にならないよう適期収穫に努める。
- (2) 適正な肥培管理により樹勢の維持、回復に努める。穿孔が多く衰弱の激しい樹は主幹部が残らないように伐採し、剪定した枝幹等も含めて適正に処分する。
- (3) 被害果を確認した場合は、周辺に枝幹の穿孔被害も発生している可能性が高いので、木屑を目印に観察する。枝幹被害を確認した場合は、成虫活動時期の4～5月にトラサイドA乳剤200倍液を樹幹部に十分に散布する。なお、薬液が新葉や花など軟らかい組織に付着すると、薬害を生じる事があるため注意する。

表 ナシのキクイムシ類に登録のある薬剤

(令和3年11月1日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	IRACコード ¹⁾
トラサイドA乳剤	200倍	樹幹部に十分散布	4月～7月（但し、収穫21日前まで）	5回以内	0.5～2.0リットル/樹	マラソン	5回以内 ²⁾	1B
						MEP	6回以内	1B

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

2) 但し、休眠期は1回以内

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認する。



写真1 ナシ果実への食入被害



写真2 ナシ果実への食入被害



写真3 ナシの果肉内の成虫



写真4 成虫